

巻頭言

ガラス産業を取り巻く環境と ニューガラスフォーラムへの期待



経済産業省住宅産業窯業建材課長

寺家 克昌

Jike Katsumasa

本年7月13日に住宅産業窯業建材課に着任いたしました寺家克昌と申します。日頃より経済産業行政にご理解とご支援をいただいておりますことに厚くお礼申し上げます。

思い返しますと、私が平成3年に通商産業省に入省した際、最初の配属先が生活産業局窯業建材課でありました。ガラス業界の皆様方はじめ窯業および建材業界の方々と直接的にお付き合いさせていただくところから私の役人人生がスタートした訳であります。この度、20年以上の年月を経て再び窯業建材行政に携われるのは非常に感慨深く、また、大きな喜びでもあります。入省当時と比べますと、日本の産業におけるガラス産業の重要性自体は変わらないのですが、しかしその内実においては大いに変貌を遂げていると実感しております。この間、様々な技術革新によって「ガラス」という素材の価値および有用性は飛躍的に高まり、住宅・建築物、自動車、各種エレクトロニクス製品や光学機器、医療用具に至るまで、高機能化された優れたガラス製品が供給されることで、日本のみならず世界の人々の暮らしは大きく変わり、豊かになっています。こうした発展の中で、依然として日本企業は、その技術的な優位性のみならず、世界市場の中での売上あるいはシェアといった数字においても優位性を保ち続けております。この間のガラス業界に携わる皆様方の不断のご努力に改めて敬意を表する次第です。また、こうした環境の変化の過程において、ニューガラスフォーラムはこれまで「ナノガラス技術」、「三次元光デバイス高効率製造技術」といった政府が支援する研究開発プロジェクトにおいて中心的な役割を担い、我が国ガラス産業の技術的な強みの蓄積において大きな寄与を果たしていると承知しております。

一方で、こうした技術革新や業界の皆様方の頑張りに反して、この20年というもの、日本経済は低迷を続け、その中で企業の経営環境は大変厳しい状況が続いていることも切実

な問題として感じているところです。特に、多くのエネルギー・電力を必要とする産業においては、電力をはじめとするエネルギーコストの高騰の影響は非常に大きく、重い負担としてのしかかっていることと思います。同時に、国際的に地球温暖化の状況は日々深刻さを増し、世の中の関心がますます高まっている中で、我が国も国際的に温室効果ガスの削減に向けた歩みを強めなければならない状況にあります。

我が国の産業界ではこれまでCO₂排出量の削減の取り組みを積極的に行い、既に世界最高水準の技術レベルを有しているところです。このような中、日々の事業を継続し、更には発展させるチャレンジをしながらも、温室効果ガスのより一層の排出抑制を同時に進めていくことが重要となってまいります。こうした状況下では、徹底した省エネルギーへの取り組みを行っていくことが重要となりますが、特に、経済成長もしくは産業の発展と省エネルギー・省CO₂といったある意味相反する事象を同時に成り立たせ、それらが互いにブレーキをかけあうのではなく、むしろ両輪となって前進・発展を遂げていくためには、何にも増して従来の状況にブレークスルーをもたらす革新的技術の開発が重要であり、必要となってきます。

ガラス業界において、その革新的技術にあたるものの一つに、平成20年度～24年度に政府の支援のもとに行われた「革新的ガラス溶融プロセス技術開発」が挙げられます。この事業にあたっては、本フォーラムにも大きな役割を果たしていただき、技術としての完成をみていると承知しております。本技術は、ガラス製造において最もエネルギーを消費する溶融工程において、従来の溶解法とは全く異なる気中溶解（インフライトメルティング）法を用い、それを発展させて短時間でのガラス原料溶解を実現するもので、従来法に比べ大幅な省エネ化をはかることが期待されるものです。こうした技術は当然のことながら、技術開発そのもののみならず、それを実用化させ、世に普及させていくことが極めて重要であり、技術の一定の完成をみた、という現時点での状況はまだ道半ばと言えましょう。本フォーラムにおかれましても、その重要性を十分にご認識いただき、主体的に技術の実用化・普及に関与し、リードしていくという役割を果たされることを願っております。新たな技術を模索し開発への道筋をつけるという一つの軸足としての役割を大事にしながら、更にもう一つの軸足として、これまで培った技術や知見をガラス業界へと広く伝え、普及させていくという役割を確固たるものとするのがフォーラムの存在意義を更に高めることと思います。技術開発においては、事業化の前にいわゆる「死の谷」の存在が世間でよく言われているところです。ここでは気中溶解法を一例として挙げましたが、これのみならず、これまで開発された技術をこの死の谷の底に埋もれさせることなく、そこから這い上がらせ、世に送り出し、業界のみならず一般の人々がその恩恵を享受できるようにするための支援において大きな役割を果たされることを期待しております。

安倍政権発足後、長引くデフレは解消に向かっておりますが、力強い成長路線に回帰す

るためにこれからが正に正念場だと思います。住宅産業窯業建材課としては、我が国産業の競争力強化を図っていくため全力で取り組んでまいります。そうした中、ニューガラスフォーラムの技術開発およびその実用化・普及に向けての様々な取り組みが、技術革新による製品の高機能化・高付加価値化・省エネルギー化をもたらし、ガラス産業が確固たる競争力を維持し続けていくことを願っています。最後になりますが、ガラス産業に関係する方々およびニューガラスフォーラムの皆様の益々のご活躍を祈念いたします。